個人視察報告書

宮邉　和弘　①

【視察日時】　４月２０日（月）
【視察場所】　広島県福山市
【視察項目】「不登校児童生徒への対策」について

全国的に不登校傾向の児童生徒の対応が急務になっている中、福山市で取り組まれている不登校対策について視察を行った。

不登校対策の基本方針と相談体制については、学区や関係機関で相談・指導を受けていない児童生徒がいないようにすることをめざして２０２４年度、教育委員会内に不登校支援チームを設置した。学校内外のどこにも繋がっていない児童生徒をゼロにするための取り組みを重点的に行っている。具体的には、①相談・支援窓口の設置、②教育支援センター適応指導教室の適用、③ICT やデジタル教材の活用、④学校復帰、社会的自立支援へのアプローチなどに取り組んでいる。

個の状況に応じて、通室日や時間、学習や活動の内容・方法等を自分で決め、安心して自分らしく過ごし、学べる場として学校復帰を前提としない、多様な学びの場の一つまた、児童生徒の社会的自立を支援することを目的に相談窓口の一つとして福山市フリースクール「かがやき」を３か所設置している。合わせて、校内フリースクール「きらりルーム」を設置し不登校等児童生徒の状況に応じた、多様な学びができる場として、不登校等児童生徒への居場所づくりのみに止まるものではなく学校において、これまで当たり前のこととして実施してきた様々な取り組みや考え方を、「きらりルーム」での子どもたち声や姿、教職員の新たな気付きなどから問い直し、全ての教室を全ての子どもたちとってそれぞれの違いを認め合える「学びの場」とすることをめざしている。

最近では、メタバース空間を活用した新しい居場所の提供や学習等の支援をすることで、自己肯定感を高め、フリースクール「かがやき」への通室、学校への登校等をめざす取り組みも行っている。さらに、どこにも繋がっていない児童生徒への支援として、把握をするための調査や聞き取り、関係各課や外部の機関と連携して「こども健全育成会支援検討会」を中心に取り組みを強化している。

成果や課題については、「かがやき」や「きらりルーム」、メタバース空間の利用により自分のペースで過ごし方や学習の仕方を決められるため学びに向かう方向性がみられ、不登校および長期化の未然防止につながっている。

課題としては、指導者や教職員不足またスペースの確保や財政的な問題もあり事業の拡大には至っていない。

大分市においても各種施策で不登校児童生徒対策に力を入れています、行政として不登校児童生徒に寄り添う取り組みとして福山市で取り組まれているような施策も参考にしながら調査研究をすすめていく必要があります。

宮邉　和弘　②

【視察日時】　４月２１日（火）
【視察場所】　福井県福井市
【視察項目】「福井市の観光施策」について

福井市では、令和６年に北陸新幹線が敦賀市まで延伸し、主要観光地では観光客入込数が増加するなど市内外に新たな賑わいが生じ、特に関東圏からの来訪が大幅に増加するなど、これまでとは異なる人の流れも生まれています。令和１１年春には中部縦貫自動車道の開通が予定されるなど、福井市への誘客チャンスが今後も続くことが考えられることから、的確な現状分析と課題把握に基づく福井市観光振興計画を策定し、新幹線開業を機に生まれた賑わいを一過性とすることの内容各種施策を展開している。
具体的には、１．県内観光拠点としての都市機能の強化、２．主要観光拠点の魅力アップ、３．持続可能な観光実現のための官民連携の強化、４．福井のイメージの明確化、リブランディング、５．ターゲットに則した情報発信、６．インバウンド誘客の推進を掲げている。
　福井市には、一乗谷朝倉氏遺跡、まちなか観光、越前海岸地区と大きく３つの観光拠点があり県内観光地との連携をはかるなかで、市内での宿泊客や市内観光消費額の増加をめざしている。
　また、来訪者の観光おもてなし拠点として、県内の観光情報を提供するとともに、地域の文化、歴史等の発信により、市民と来訪者の交流を促進し、もって観光の振興及び地域の活性化に資することを目的に、福井市観光交流センターを設置した。
　福井駅に構内にあり、土日を中心にイベント等を開催し、中心市街地の賑わい創出に寄与している。
　大分県では、東九州新幹線や、豊予海峡ルートなどの計画において調査研究を続けていますが、どのような交通機能が整備されるにしても、大分市がその拠点的な役割を担うことは間違いがありません。
　実現までには、かなりの時間と整備資金が必要ですが、将来を見据えた大分市の発展に向け２２街区、５４街区の活用や経済対策を含め観光振興対策を早い段階からしっかりと議論していく必要があります。